



第6回環境フォーラム「うつくしま EM パラダイス」でお寄せいただいた疑問・質問にお答えします

地球環境共生ネットワークは昨年 11 月 27 日、福島市で第6回環境フォーラム「うつくしま EM パラダイス」を開催しました。会場での来場者アンケートに寄せられたご質問にお答えします。

■農業資材としてのEM活用について

- Q. EMボカシだけで米づくりをしたことがあり、美味しい米が出来ましたが倒れて難儀しました。倒れないようにするための方法を教えてください。
- A. 根の生長を促進し稲を倒れにくくするため、EM活性液あるいは塩入EM活性液をEMボカシと併用することをお勧め致します。一例として、以下にEM活性液とEMボカシの使用方法を示します。
- 秋処理として、EMボカシ（100-200 kg/10a）とEM活性液（100 l/10a）を稲刈り後の水田に均一に散布した後、耕起し土づくりを促進する。
 - 代かき時にEM活性液（100 l/10a）を散布あるいは水口から流し込む。
 - 苗の活着後にEM活性液（100 l/10a）を流し込む。その後は、月に1回程度同量を流し込む。
- Q. EMダンゴを畑に埋める目安を教えてください。（Om間隔でOcmの深さ）
- A. EM団子は2メートル間隔で30cm深さに埋め込みます。
- Q. 塩入EM活性液とは、塩の量は何パーセントでしょうか。
- A. ローリータンクなどの容器に海水（100 l）、お湯で溶かした糖蜜（1 l）、EM1（または、EM活性液を1 l）を入れ、密封して培養したものです。海水が手に入らない場合は、水100 lに対して、食塩3.5 kg、にがり1 lの比率で混ぜ合わせた人工海水で代用します。

EMで山小屋トイレ浄化 16年

北アルプスの稜線のふるさと～ランプの小屋だより～ 1月31日(火)PM9:00からBS朝日で放送されます

北アルプス・七倉岳(2,509m)の稜線に建つ山小屋「船窪小屋」（長野県大町市）。昭和29年(1954年)、現在のテント場に建てられ、以来、62年。現在の船窪小屋は昭和49年に移築されましたが、松澤宗洋さん・寿子さんご夫妻のお二人で小屋を切り盛りしています。電気のない

「ランプの山小屋」として人気の船窪小屋では、トイレ浄化にEMを活用して16年になります。登山客に人気のランプの山小屋だより～ぜひご覧ください。

（長野県世話人 坂井千恵子さんから情報提供いただきました）



各地の取り組みをお寄せください！～レポート募集のお知らせ

会員の皆様のEM活動を「善循環の輪」通信の紙面で全国にお伝えします。
ぜひ事務局までお寄せください。